

# 総合学科の創設について

## —熊本県下初の実践をとおして— (I)

益 田 亮 英

### 1 はじめに

大学改革、大学入試改革、高校改革、高校入試改革などとさまざまな教育改革が進められている中で、高校改革の大きな柱の一つとして総合学科が平成6年度に創設された。熊本県では、平成8年度に県立大津産業高校が学科改変により県下初の総合学科高校として翔陽高校と校名も新たにスタートした。

私は、当該校の教育改革推進チームのリーダーとして、教務主任、教頭、校長として総合学科創設から10年間さまざまな立場で携わる機会を得た。教育改革のパイオニア校として県民注視の下、絶対に失敗が許されないというプレッシャーの中で県下に誇れる総合学科高校の推進は、従来の教育現場の常識から脱却した思考の転換と柔軟な判断と決断が必要であった。これらの実践を通して得た経験から、新しい時代に即した教育課程はどうあるべきか、教師にはどのような姿勢が求められるか、今後の学校経営に必要なことは何かなどについて論じてみることにした。

また、現行の高等学校学習指導要領では、普通高校や専門高校にも殆どの教科に選択制が導入された。個々の生徒の個性を伸長するための教育課程が作成され、総合的な学習が実施されるなど全ての高校が総合学科化しつつある。総合学科の成果と課題を踏まえて総合学科の今後のあり方についても考えたい。

### 2 総合学科誕生の背景

わが国では戦後の新制高等学校発足以来、普通教育を主とする普通科と専門教育を主とする専門学科の2学科制で高校教育がなされてきた。

成熟化社会の到来とともに、高学歴志向が高まり、高校進学率が向上したことによって、能力・適性、興味・関心、進路等多様な生徒が入学するようになり、普通高校からも多くの生徒が就職を希望し、専門学科からも上級学校へ進学を希望する生徒が増えるなど、普通科は進学、専門学科は就職といった固定的な考えが通用しなくなった。また、偏差値偏重の中学校の進路指導によって高等学校間の序列化が進み不本意入学が生じた。その結果、学習意欲の喪失へとつながり、不登校、怠学あるいは中途退学や非行問題などが発生することとなった。

平成3年(1991年)中央教育審議会において普通科と専門学科とを総合するような新たな学科の設置が提言され、これを受けて、総合学科が創設されることになった。その内容は、将来の職業選択への自覚を深めさせる学習および主体的な学習を通して学ぶ楽しさを体験させる学習の重

視、制度の弾力的な運用、多様な教科・科目の開設等である。こうして、平成6年度から総合学科が普通科、専門学科に続く第3の学科として誕生することになった<sup>1</sup>。平成6年（1994年）度7校の総合学科が平成17年（2005年）度は286校と着実に設置校は増えている。

現在熊本県における公立の総合学科は翔陽高校1校だけであるが今後については、平成16年（2004年）11月に設置した「熊本県県立高等学校教育整備推進協議会」に、県立高校の通学区域の在り方や統廃合を含めた再編整備等について諮問がなされた。平成18年（2006年）3月に「県立高等学校教育整備推進協議会」の最終報告を受けて、県立高校の通学区域及び再編整備等に関する基本計画の素案が策定され、それについて地域説明が各地で実施されているところである<sup>2</sup>。しかし今のところ具体的な進展については未定である。

### 3 総合学科の特色

総合学科はさまざまな社会現象から生じる高等学校問題の解決のための切り札として登場したのであるから、従来の2つのタイプの高校にない特徴を有しており、その特徴を生かすことによってその成果が期待される。生徒に職業選択を視野に入れた進路への自覚を深め、主体的な学習を通して生涯にわたって学ぶ意欲を持たせるための教育としての展開上の特徴を持っている。

#### (1) 選択制と単位制と個性伸長

普通科目と専門科目の双方にわたって一定の系統性を持ちながら多様な選択科目を開設し、生徒はこの中から、自己の能力・適性、興味・関心、進路等に基づき履修する科目を主体的に選択することができる。学びたい科目を自らの意思で選択するということは、生徒の個性を生かした主体的な学習ができることになり、学ぶことの楽しさや成就感を体感し、学習に対する意欲の形成を図ることができる。

単位制の導入により、履修と修得を明確に区別し、技能審査の成果の単位認定など学校外における学修等の単位認定を積極的に行う弾力的な教育課程の編成ができる。

生徒が己の個性や適性を知り、将来の目標を具体的に定めそれぞれの目標実現のために一人一人にあった学習を進めることによって個性の伸長が行われる。

#### (2) ガイダンス機能の充実

技術革新の進展が著しく、産業・就業構造が大きく変化している時代の中で、中学3年時に将来の進路について明白な展望を持つことは困難な状況になっており、高等学校におけるさまざまな学習や活動を通して自己の能力や適性を見出していこうとする生徒も多い。

総合学科では科目「産業社会と人間」を原則履修科目として、生徒全員に履修を義務付けている。職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を行うことにより将来を見つめた科目選択に対するガイダンスや進路指導などキャリア教育の充実を目指している。

「産業社会と人間」の学習形態の特色から全職員がガイダンス担当者となり、また、図書館、進路指導室など学校のあらゆる施設・設備をフル活用したガイダンスが実施される。

### （3）普通科目と専門科目を有機的に学習

専門学校、大学等上級学校に進学した後も、学部・学科への不適応から進路変更に至ることにならないようにするためには、専門に関して事前学習を行い目的意識を確立しておくことが有効であるが、総合学科では専門分野のガイダンス的な科目の学習が高校時代に体験できることである。

たとえば、福祉関係の学問や仕事に興味を感じた場合、総合学科では福祉に関する導入的な科目を履修した上で、自分の適性を見極めて進路選択へと進むことができる。平成11年（1999年）3月～5月実施の文部省調査では総合学科卒業生を受け入れている企業や大学・専門学校の関係者から目的意識の明確さや意欲の高さが評価されている<sup>3</sup>。

このように普通科目だけでなく専門科目を履修することによって、学問的な考え方や知識が実践的・体験的な学習と関連付けられ、上級学校進学、就職に関する態度を明確に自覚できる。

## 4 総合学科への進学者像<sup>4</sup>

総合学科の設置趣旨から言えば全ての生徒に対応できるが、タイプとして分類すれば次の4通りが挙げられる。

- （1）興味・関心や学習の方向がはっきりしていてさらに主体的に学習を進めたいと思う生徒。  
（総合学科の特色に魅力を感じる生徒）
- （2）就職したいと思っているが、幅広い分野の学習を通して就職先を見つけたいと思っている生徒。（幾つかの分野の学習を経験して就職の方向を決めたい生徒）
- （3）大学に進学したいが、幅広い分野の学習を通して自分の進む方向を決めたいと思っている生徒。（大学の専攻分野の導入的な科目を学習して学習意欲を高めたい生徒）
- （4）総合学科での学習を通して就職するか進学するか決定したいと思っている生徒。（働くことか学び続けるか迷っている生徒）

## 5 熊本県における総合学科の誕生

本県における総合学科の誕生は、県立高校教育改革推進会議が平成6年（1994年）3月、大津産業高校に総合学科を新設することを決めたことに始まる<sup>5</sup>。大津産業高校は、工業、農業、家庭を専門とする6学科7学級の学校であり、総合学科が目指す普通科と専門学科を総合する教育に対応しやすいということ。卒業生の進路も大学等上級学校進学から、就職も工業、農業関係等と幅広く多様であることなどが上げられている。さらに考えられることは、中学生の受験希望が多く常に高い入学倍率を続けていること、JR沿線にあり、県下の広い地域から通学することが可能などということが、県下初の新しいシステムの学校の設置環境としては最適だったと考えられる。開設時期については平成7年度以降の早い時期ということであったが、平成8年度以降の早い時期に変更され、校名も翔陽高校と改め平成8年4月スタートとなった。

翔陽高校（当時は大津産業高校）では、平成6・7年度高等学校教育改革推進研究協力校の文部省指定を受け、総合学科設置に向けて取り組んだ<sup>6</sup>。研究主題は「総合学科における教育課程の編成・実施のあり方」とした。工業系3学科、農業系2学科、家庭系1学科を有する専門領域に、

商業系、普通系を加え、水産以外の全ての学習領域を持つ本格的な総合学科として、単位制・選択制を導入して多様な生徒の個性に柔軟に対応できる教育課程の編成や実施について研究した。できるだけ広い学習領域から、一人ひとりの生徒が自分の能力・適性にあった学習内容を選択可能なシステムの実現を目指した。

なお、施設設備については、選択制による講座数増に備えて、講義室は従来の普通教室22教室から大講義室（160人収容）、小講義室（10人程度収容）など大小教室を42教室に、地学教室、書道室、音楽室などの特別教室、更衣室、ロッカー室の設置など新棟の建設と旧校舎の改築で対応した。また、生徒情報管理用として校内LANシステムも導入した。

さらに、ワンシューズ化の採用により土足のまま校舎内に入れるようにしたことによって、一人一人がそれぞれの時間割で毎時間複雑に移動する動線にスムーズに対応できるようになった。このことは、生徒用の下足箱が不要になったことで有効活用できる空間を作り出したばかりでなく、下足箱から発する悪臭がなくなり快適な環境作りにもなった。

## 6 総合学科の特徴を生かすための教育課程上の工夫

### (1) 選択制を生かすための工夫

#### ① 多くの科目を開設する

総合学科の特色は、選択制である。選択制の意図するところは、学習したい科目を学習させて勉強に対する意欲を持たせることにある。従来の普通科や専門学科の場合、必修科目の選択については学校運営上の関係から、選択すべき科目を学校が選択する学校選択制が多かった。必要教員の確保などの点から学校としては大変楽であるが、生徒が自ら判断して選択するのでなければ選択制の意味はない。そのためには、多くの科目を設定して選択の幅を広げることが必要である。

翔陽高校の場合、芸術について例を挙げれば、専門学科時代は美術を全員に履修させる学校選択制をとっていたが、総合学科になって音楽、書道、美術から自由選択とした。芸術の授業時数は14時間（7学級×2単位）から20時間（音楽6時間、書道4時間、美術10時間）となった<sup>7</sup>。平成6年度（1994年）学科制の下で86科目であった開設科目が、平成10年度（1998年）の総合学科完成年度には124科目に増えている<sup>8</sup>。

#### 《資料1 教育課程表》

#### ② 原則として第2希望を取らない

ある科目の選択希望者が多いからといって簡単に第2希望や第3希望に回すようであれば、選択制の目標とするところが崩れる。また、ある科目の学習がしたくても希望者が少ないという理由で、開講されないのであれば学習意欲はなくなってしまう。科目を開講するか否かは個々に考えるとして、科目の講座を開講する最低の人員の条件は1人とすべきである。教育課程の編成に当たっては、系列毎に体系的な学習ができるような科目を準備し、開講するように努めなければならない。ある科目を選択した生徒が1人であっても開講することが原則であるが、総合学科といえども教員数や教室など物理的なスペースにも限度があり、生徒の希望に100%応えることは不可能であるが100%満足させることを目標にしておくことが必

要である。

翔陽高校の場合 1年次選択の芸術など一部科目については第2希望をたずねたがやむを得ず変更するときは十分な相談を重ねた<sup>9</sup>。

表1 授業の開設状況（平成15年度）

《教育懇話会資料から》

年次	科目数	講座数	1講座あたりの人数
1年次	20	93	33.7人
2年次	39	110	26.8人
2、3年次合同	17	57	14.4人
3年次	70	116	19.8人

※1講座あたりの受講人数は1人～42人

### ③ 科目選択のための条件をつけない

3年次になると応用・発展的な科目や積み重ね的な科目を選択することになり、英語Ⅱは英語Ⅰを履修した後でないと学習できない。工業・農業などの専門的な分野の学習にもこのような科目は多い。実習のようにある科目を理論的に学習した上に実験的・体験的な学習を行う科目もある。体系的な学習を行う上では科目選択にはある程度の条件が必要になる。2年次に選択した科目によって3年次に選択できる科目が制限されることは当然のことである。

生徒がある分野の学習をする上で系統的体系的な学習ができるように科目をまとめたものを系列という。系列は学科やコースではないので、系列の生徒という網でくくらないようにしなければならない。生徒は科目を選択するが系列を選択するのではない。科目選択に条件をつけると選択する生徒が限定されて指導しやすくなる。しかし、安易に科目選択の条件を設けると、普通科目だけでなく専門科目を履修することによって、学問的な考え方や知識が実践的・体験的な学習と関連付けられる総合学科の特色が打ち消されることになる。

《資料2 科目案内》

### ④ シラバス（科目案内）の提示と授業内容

科目案内（シラバス）を見て科目の授業内容が自分の興味・関心や進路と合致しているかを判断し科目選択は行われる。従来の専門学科の場合、科目間の学習領域の中で重複する分野があると担当者間で話し合っ、どちらかの科目で学習し重複しないように調整して授業を進める効率的な学習が行われていいわけであるが、総合学科の場合、生徒は両方の科目を選択しているとは限らない。教師はその科目について全ての学習内容を指導しなければならない。ある内容についてはすでに別の科目で学習している生徒と、初めて学習する生徒が混在しているということを認識することが大切である。

科目案内（シラバス）は授業（講座）のカタログであり、開講することは生徒と契約を結ぶことである。だから授業はシラバスに沿って確実に実施されなければならない。シラバスに忠実に授業を進めるという義務と責任が教師に求められる。

## (2) 単位制の特徴を生かすために

### ① 履修と修得の明確な区別

卒業条件は必修科目や原則履修科目、学校指定科目、特別活動を履修した上で、必要単位数を修得していること<sup>10</sup>、となっている。

従来の学年制では、学年によって履修する科目が決められており、さらにそれらの科目を修得しなければ、次の学年に進級できないから、履修即ち修得と言う考えが強く現実的に履修と修得を区別する必要がなかったが、単位制では必修科目は必履修科目であり修得までは求められていない。「英語Ⅰ」を修得しなくても履修だけしておけば「英語Ⅰ」の単位はないけれども「英語Ⅱ」を選択することができる。必修科目について修得単位がなくても他の科目の単位が足りておれば卒業ができる。

指導要領では履修については授業を受けていることとあるだけで、具体的に授業時数の何%以上の出席があれば履修を認めるなどの指摘がない。従来の普通高校、専門高校では出席時数不足の生徒には補講などの指導を実施するが、複雑な授業展開の総合学科では該当する生徒の数にもよるが、授業時数の不足生徒への補講は事実上不可能である。このために「履修」と「修得」の違いを明確にし、はっきりと履修や修得の基準を示した教務規程を生徒や保護者に充分周知することが必要である。

《資料3 教務規程（履修の認定、単位修得の認定）》

### ② 2学期制の導入

2学期制で単位制の特徴がさらに生かされる。単位認定が前期と後期に分割認定が可能である。前後期に違った科目の開設も可能である。翔陽高校の場合、総合学科設立初年度に「産業社会と人間」を前期集中とし「情報に関する科目」を後期に開設した<sup>11</sup>。しかし、「産業社会と人間」における2年時以降の科目選択指導が前期で終わらなかったことと、前期開設科目と後期開設科目の担当者・施設設備などの問題が発生し、授業展開に無理が生じたため、前後期集中科目は廃止した。ただし、3年間で卒業条件を満たさず4年次生になった生徒については、標準単位数を越えて開設している科目について前期終了時に単位認定を行い卒業を認めることにした。

《資料3 教務規程（単位修得の認定）》

### ③ 技能審査などの単位認定

学校外の学修等について単位認定が可能になっているため、翔陽高校でも技能審査の結果も関連科目の増加単位として認め、生徒の学習暦の評価として積極的に採用した。生徒によっては普通90単位学習するところを94とか96単位修得して卒業することになった。中には漢字検定やボイラ技士、電気工事士などの単位を認定することによって卒業単位数に達した生徒もいた。

《資料 (iii) 教務規程：技能審査の単位認定》

表2 技能審査の成果の単位認定について（平成11年度）一部抜粋《教育懇話会資料から》

技能審査の種類と水準	対応科目、増加単位数および人数									
	1年			2年			3年			合計
	対応科目	増加単位	人数	対応科目	増加単位	人数	対応科目	増加単位	人数	人数
日本漢字能力検定2級	国語Ⅰ	2	1	国語Ⅰ	2	2	国語Ⅰ	2	3	6
家庭科食物技術検定1級							食物	2	3	3
電気工事士2種				電気基礎	2	9	電気基礎	2	4	13
造園技術検定1種							造園計画	3	1	1
工事担任者 アナログ3種										
危険物取扱者乙種				食品化学	1	7	食品化学	1	1	8
全商簿記1級							会計	2	2	2
秘書技能2級							課題研究	1	1	1

### (3) 科目「産業社会と人間」の活用

自己啓発的な体験学習や討論、意見発表などを通して、生徒に自身の個性や適性を見つめさせ、自己を生かす職業選択を考えさせ、人間としての在り方・生き方をも探求し、ライフプランを考えさせる科目。総合学科の原則履修科目であって、総合学科の生徒は必ず履修しなければならない科目である<sup>12</sup>。目的意識を持ち主体的で意欲的な学校生活を送るためには、職業選択を視野に入れた科目選択が行われなければならない。この科目の中で2、3年次に学習する科目を決定していく科目選択のガイダンス科目としての役目を持っている。

#### ① 指導内容

##### i) 「職業と生活」

- ・自己理解
- ・職業の種類と特徴
- ・社会人講話（外部講師）

##### ii) 「わが国の産業発展と社会の変化」

- ・企業訪問・職場調査

##### iii) 「進路と自己実現」

- ・各系列の開設科目説明
- ・科目選択
- ・作文
- ・ディベート

#### ② 学習の形態

クラス単位、学年単位、グループ単位など学習グループを変えながら、上級学校や企業訪問などによる体験、図書館、進路指導室での調べ学習、インターネットの活用など時々に応じた教室にこだわらないさまざまな授業形態を採用している。

#### ③ 指導者

学年主任を中心としたクラス担任が担当するが、社会人や卒業生、教科を問わず全職員、多彩な顔ぶれで指導に当たる。

「産業社会と人間」の学習で培った姿勢が、興味・関心の持てるものを自分で主体的に学習する態度の下地となり、生涯学習社会の出発点として興味のあるものを探し出して学習を始めるた

めの原動力となる。

いろいろの科目を自由に選択することによって、自分の時間割を自由に作ることができる。自分の興味や関心ばかりで選択しても楽しい高校生活を送ることになるかもしれないが、高校卒業時の進路にプラスにはならない。自分の将来の進路に必要な資格を取ったり、学習を積み重ねることなく3年間を過ごすと進学や就職の際に選択の幅が少なくなり、進路領域を狭める結果につながる。自分の意思で自由に科目選択はできるが、自由には責任が伴うということを実感させることが大切である。このことは科目選択ガイダンスの大きな役目の一つである。基礎科目を勉強して応用科目へと発展させることが大切であり、系列の意味を理解し系列の示す体系的な科目選択をすることが必要である。基礎科目だけの選択では力を身につける事はできない。

#### (4) インターンシップと課題研究

1年次の「産業社会と人間」は、2年次の「インターンシップ・上級学校体験」と3年次の「課題研究」へとつながる。

##### ① インターンシップ

インターンシップは職業の現場における実際的な知識や技術・技能に触れる事が可能になるとともに、学校における学習と職業の関係について生徒の理解を促進し、学習意欲を喚起すること、生徒が教師や保護者以外の大人と接する貴重な機会となり、異世代とのコミュニケーション能力の向上が期待される<sup>13</sup>。大変な教育的な効果が期待される場所であるが、翔陽高校では平成12年度から実施した。2年次生320名全員を5日間実施したのは県下で初めての試みであった<sup>14</sup>。翔陽高校のある大津町は大手の自動車製造工場を中心とした工業団地が数多く存在するなど、立地条件に恵まれており、100を超える地元企業、官公庁の協力を得て実施した。そのノウハウは県下の多くの高校のモデルとなっている。翔陽高校の場合「産業社会と人間」の延長線上として自分の将来を視野に入れた上で履修科目を自ら決める、科目選択のためのインターンシップとしての位置づけもある。インターンシップの成果は生徒、保護者、企業の3者から、それぞれプラス面に評価されている<sup>15</sup>。

##### ② 課題研究

「課題研究」は“多様な教科・科目の選択履修によって深められた知的好奇心等に基づいて自ら課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てるとともに、自己の将来の進路選択を含め人間としてのあり方生き方について考察させる”という目標を持った総合学科の原則履修科目であった。しかし、現在は総合学科については「総合的な学習」の中に“生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動含むこと”と規定されて、「課題研究」を「総合的な学習」の中に取り込んだ形になっている<sup>16</sup>。そのために、総合的な学習の中で2年次にインターンシップの事前指導、事後指導を通して、学校での学習と職業との関係や職業現場における体験から自己の職業適性や将来設計について考え、3年次に選択科目を通して学習した内容について課題解決を図りながら学習内容を深めることにより職業選択の能力や職業意識が育成していくというキャリア教育が行われる。

#### (5) “生活の場”と“学習の場”を生かす指導

総合学科のホームルームは学校生活の基礎となる集団であり、さまざまな進路希望や興味・関



心を持った生徒の集まりである。地域の社会集団と同様、いろんな考えや違ったタイプの生きかたをしている生徒が集合している“生活の場”である。そこではそれぞれの個性を認め合いながら人間関係やコミュニケーション能力を高めあうことができる。科目選択によりできた集団は“学習の場”であり、同じ目的を持ったものが情報を共有して切磋琢磨する集団でありそこでは学びあい競い合うことがそれぞれの力を伸長することになる。

総合学科では、生活集団の場としてのホームルームと科目選択による学習集団を効果的に活用しなければならない。朝夕のSHRとロングホームルーム以外顔を会わせないという人間関係も生じることになる。そのためにホームルームへの帰属意識を高めるための工夫が必要である。

翔陽高校ではクラスマッチや体育大会など多くの学校行事にはクラス単位で、文化祭などはクラスや系列、部活動単位で取り組み、さまざまな行事を通して豊かな人間関係を作り出すことを目指した。そのためのスローガンとして「広げよう友と進路のネットワーク」を採用した。また、ホームルームについては人間関係を広めるため、1年次終了時にクラス替えを実施したが、2年目には担任の希望でクラス替えをやめた。これはクラスの中でお互いの人格をより深く理解してホームルームへの帰属意識を高めるためと、2、3年次における進路指導等に担任としてクラスの生徒の把握がしやすくすることなどが大きな理由であった。このことについては学年担任の意見を重視しその意思に従った。そのため結果的にはクラス替えは年度によって変った。ただし、生徒に不安を抱かせないために前年度踏襲を原則とした。

## 7 総合学科の特徴を生かすために求められる教師の資質

新しいシステムの学科を運営するためには、柔軟な思考や言動のできる教師が求められる。従来の考えから脱却してこそ総合学科の特徴は生かされる。

### (1) 選択制・単位制を生かすためのガイダンス能力を持つ

「産業社会と人間」の中で、全職員が生徒一人一人の科目選択についてガイダンスを行う。目標を目指して突き進む意欲や態度を育成するためには、科目選択の満足度を高めるようなガイダンスが何より大切である。

希望の科目が90%しか選択できなかつたと感じるか、90%も選択できたと感じるかによって、その後の高校生活が大きく変わる。希望の科目が100%開講される保障はないのだから、あらゆる場合を考慮してガイダンスに当たらなければならない教師の力量が問われるところである。生徒に満足感を与え学習意欲高揚へとつなげるガイダンスが必要である。進路指導部や系列の専門科目の教師と十分に連携をとり真摯な態度で対応し信頼関係を築かなければならない。

#### ① 科目選択についてのガイダンスの要点

- ア) 卒業要件を満たす指導
- イ) 進路希望に応える指導
- ウ) 興味・関心と体系的な学習

一人一人が自分の興味・関心や進路希望によって、それぞれ独自の科目を選択するのであるから、特に理科や地歴等、指導要領に細かく条件が示されている科目について、卒業に必要な必修科目の履修がなされているか注意深くチェックしなければならない。生徒の進路目

標達成のためには単に興味・関心だけで選択するのではなく、学問的にまとまりのある体系的な学習が必要であり、好きでない科目も履修しなければならないという指導が求められる。

② 受講者が少ない科目を選択した生徒へのガイダンスの要点

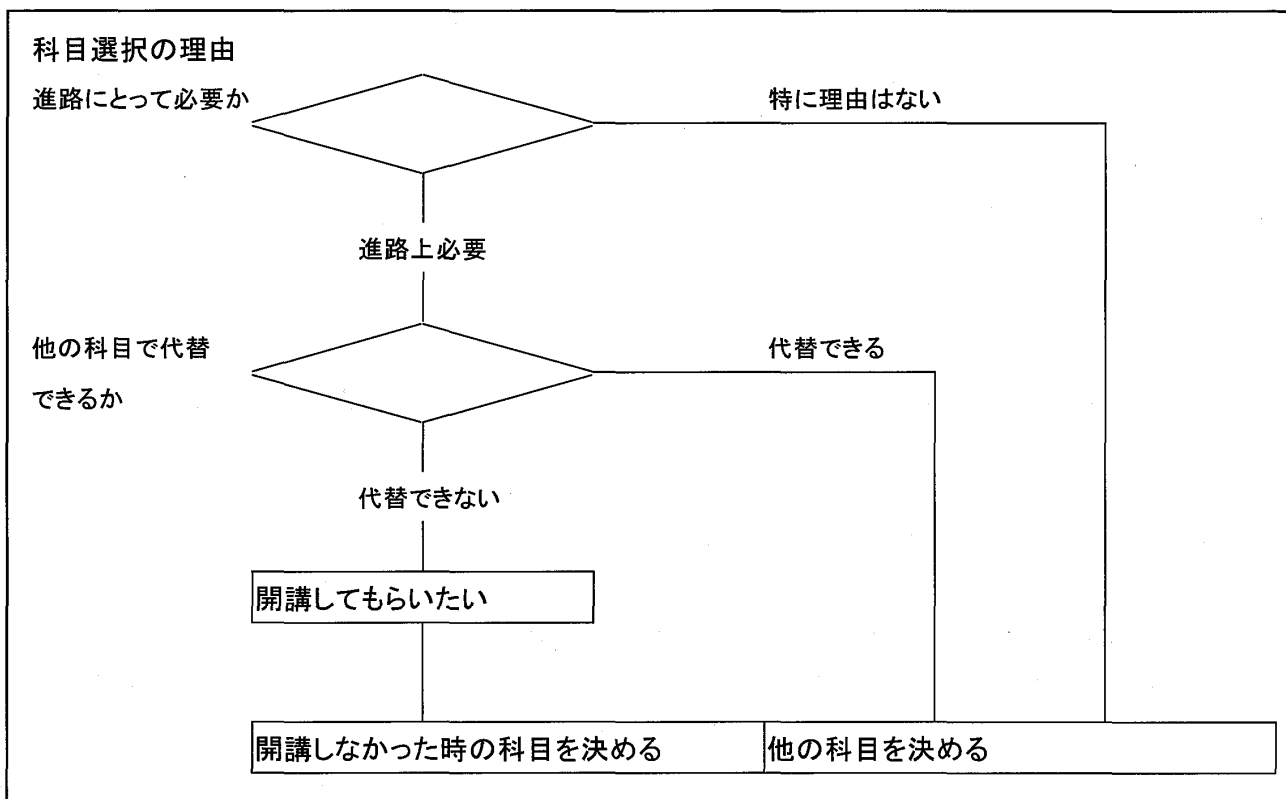
ア) どのような進路を考えてこの科目を選択したか

イ) 進路に必要な科目はそのほかの科目で対応できないか

ウ) 希望者が少ないので希望がかなえられないこともある、そのとき何を選択するか

進路実現に必要な科目について代替科目とか次年度の履修でも対応できるもの、当該学年で履修しないと進路が閉ざされるものなど科目の重要度等十分な情報を得ながらガイダンスにあたる。

図1 少人数科目のガイダンス



(2) 総合学科の特殊性を理解できる柔軟な思考

① 科目と授業時間数

総合学科では授業の講座数が多くなる分、担当する科目や週時間数が増える。総合学科の特徴の一つは、科目の担当者より時間割が先にできるということである。

生徒の科目選択が終わると希望を満足させるために授業の展開表が作成される。大変複雑な作業が続き年度末にはほぼ時間割は完成する。この時間割に沿って各教科では担当科目を決めることになる。新人として転任してきたときにはすでに自分が担当する講座や生徒が決定している。担任している自分のクラスの生徒に授業しない場合もある。時間割については担当教師の個人的な希望はほとんど聞き入れられない。教科の中で多少の調整ができるので、変更が100%できないわけではないが、非常勤講師などの時間割についても同様であるから、教師の希望より学校の都合で無理をお願いすることになってしまう。

## ② 多忙さの自覚

総合学科では一人の教師が担当する科目が増える分、教材研究の時間も多く必要になる、授業後の出席入力も義務付けられる。担任との情報交換を例にとっても、多くのクラスから生徒は集まって講義を受けているから、一つのことで何人もの担任に連絡することになり複雑で作業量が増える。しかし、生徒管理システムが運用されると、従来は各教科担任から成績票を集めて集計して一覧表を作るという担任の仕事は生徒管理システムが成績一覧表や通知表は作成してくれるので緩和されることになる。

## ③ 教科担任としての責任

総合学科では、1年次生はほぼクラス単位で授業展開がなされるのでさほど問題ないが、2、3年次となると単なる一教科の担任として終わらないきめ細かな指導が求められる。生徒が一人一人の時間割で学校生活を送っているなかでは、クラス担任には従来の学科のようにクラスの生徒全ての動向を掌握できない。さらに、履修認定の基準などを厳しくし、欠課時数について生徒に強く自己責任を求める分、教科担任には指導の経過の説明責任が強く求められることになる。出席状態や課題提出など問題を抱えた生徒については、単にクラス担任に連絡するだけでなく直接、保護者に連絡するなどの指導が必要である。自分の講座に出席している生徒については従来よりもっと突っ込んだ教師と生徒の関係が必要である。

## ④ 少人数授業の工夫

40名の授業の進め方と、10名の授業の進め方はおのずから違ってくる。特に少人数の場合は、講義形式の授業から脱却して討論、調査研究、対話、見学など体験的な学習や課題解決的な学習が実施しやすく、より密度の高い授業が展開できる。講座の受講者数に合わせた授業展開の工夫を怠ってはならない。

## ⑤ 不可能な時間割変更

クラス単位で授業が行われている状態では、担当者だけの話し合いで簡単に授業の変更ができる。選択制の授業では授業の入れ替えは不可能である。何かの都合で授業できないときはあらかじめ十分な対策を取っておくことが必要である。講座担当か代理の者が行かないまま自習になった場合、出席管理が空白になってしまう。教科内、系列内での意思疎通、教務部との連絡を怠ってはいけない。報告、連絡、相談といった教師間のコミュニケーションや組織としてのまとまりが必要である。

### (3) 生徒管理などの特殊性を認識した責任感と義務感

生徒の出席管理や成績管理について決められた期限までに必ず結果を入力すること。

担任が成績表をアウトプットしてから、ある科目の成績がないことに気づいた、決められた期日までに担当者の成績入力が済まされなかったために生じたことであったが、担任ではなかなか気づかないことである。

単位制の場合履修修得の認定作業は、一人一人について科目ごとに厳しく進められるために、それぞれの教科科目についての指導の経過と結果について十分な説明責任が求められる、指導記録の保存などキメ細かい心構えが大切である。

“追”ここまで、熊本県ではじめての総合学科高校としての実践を基に教育課程の在り方、それに携わる教師像について述べた。次回（Ⅱ）で学校経営はいかにあるべきか、総合学科の成果

と課題、今後の総合学科のあり方について述べたい。

資料 1 (教育課程表)

平成18年度教育課程表			
学科	総合学科		
入学年度	平成18年度		
単位数	1年次	2年次	3年次
1	④国語総合	②体育	②体育
2		①保健	(選択科目から26単位選択)
3			
4		②グリーンデザイン	
5	②現代社会	(選択科目から24単位選択)	
6			
7	④数学 I		
8			
9			
10			
11	②理科総合 A, B から 1 科目		
12			
13	③体育		
14			
15	①保健		
16			
17	②音、美、書 I から 1 科目		
18			
19	②情報 A		
20			
21	④英語 I		
22			
23			
24			
25	②家庭基礎		
26			
27	②産業社会と人間		
28			
29	②総合選択科目		②総合的な学習の時間
30		②総合的な学習の時間	
31	①LHR		①LHR
32		①LHR	
留意事項	総合選択科目は次の中から選ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学 A</li> <li>・オーラルコミュニケーション I</li> <li>・農業科学基礎</li> <li>・工業技術基礎</li> <li>・ワープロライティング</li> <li>・生活デザイン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業までに日本史 A B 地理 A B から 1 科目履修すること</li> <li>・卒業までに理科をもう 1 科目履修すること</li> <li>・2年次の「総合的な学習の時間」の単位数は、通年で実施する 1 単位と、特定の期間(前期)に実施するインターンシップ(1 単位分)とを合わせて単位とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史 A B から 1 科目履修すること</li> </ul>

## 教育課程表

教科	科目	標準単位	1年次	2年次	3年次	合計	備考	
国語	国語表現 I	2			2	0.2		
	国語総合	4	4	2		4.6		
	現代文	4		2	2	0.4		
	古典	4		2	2	0.4		
	古典講読	2			2	0.2		
地理歴史	世界史A	2			2	0.2		
	世界史B	4			4	0.4		
	日本史A	2		2		0.2		
	日本史B	4		4		0.4		
	地理A	2		2		0.2		
	地理B	4		4		0.4		
公民	現代社会	2	2			0.2		
	倫理	2			2	0.2		
	政治・経済	2		2		0.2		
数学	数学基礎	2			2	0.2		
	数学I	3~6	4			0.4		
	数学II		4		4		0.4.6	
					2			
					4	2		
	数学III	3			4	0.4		
	数学A	2	▲2		2	0.2		
数学B	2			2	0.2			
数学C	2			2	0.2			
理科	理科総合A	2	○2	2		0.2		
	理科総合B	2	○2	2		0.2		
	物理I	3			4	0.4		
	物理II	3			4	0.4		
	化学I	3			4	0.4		
	化学II	3			4	0.4		
	生物I	3			4	0.4		
	生物II	3			4	0.4		
	地学I	3			4	0.4		
地学II	3			4	0.4			
保健体育	体育	7~8	3	2	2	7		
	保健	2	1	1		2		
芸術	音楽I	2	●2			0.2		
	音楽II	2			2	0.2		
	美術I	2	●2			0.2		
	美術II	2			2	0.2		
	書道I	2	●2			0.2		
	書道II	2			2	0.2		
外国語	オーラルコミュニケーションI	2	▲2		2	0.2		
	オーラルコミュニケーションII	4			4	0.4		
	英語I	3	4			0.4		
	英語II		4		4		0.4	
					2	2		
	リーディング	4			4	0.4		
ライディング	4			4	0.4			
家庭	家庭基礎	2	2			2		
情報	情報A	2	2			2		
普通教科計			26~28	3~27	4~28	33~83		
農業	農業科学基礎	2~6	▲2			0.2		
	総合実習	4~12		2	4	0.6		
	農業情報処理	2~6		2		0.2		
	食品製造	2~10		4	2	0.4.6		
	食品化学	2~8		2	4	0.6		
	微生物基礎	2~6		2		0.2		
	食品製造衛生	2			2	0.2		
	食品加工	2		2		0.2		
	動物微生物バイオテクノロジー	2~6			2	0.2		
	食品流通	2~6			2	0.2		
	造園計画	2~10		2	4	0.4.6		

	造園技術	2~10		4	4	0.4.8	
	測量	2~8		2		0.2	
	生物活用	2~6			2	0.2	
	グリーンデザイン	2		2		2	学校指定科目
	ガーデニング	2			2	0.2	
	ホースライディング	2			2	0.2	
工業	工業技術基礎	2~6	▲2			0.2	
	機械実習	4~20		4	2	0.4.6	
	電子実習	4~20		4	4	0.4.8	3年次のみは不可
	建築実習	4~20		2	4	0.6	
	機械製図	2~18		2	2	0.2.4	3年次のみは不可
	電子製図	2~18			2	0.2	
	建築製図	2~18		2	2	0.2.4	
	情報技術基礎	2~6		2		0.2	
	生産システム技術	2~8			2	0.2	
	機械工作	2~8			2	0.2	
	機械設計	2~8		2	2	0.2.4	
	原動機	2~4			2	0.2	
	電気基礎	2~8		4	2	0.4.6	
	電子技術	2~6			2	0.2	
	電子情報技術	2~4		2		0.2	
	ソフトウェア技術	2~6			2	0.2	
	建築構造	2~5			4	0.4	
	建築施工	2~6			2	0.2	
	建築構造設計	2~8			4	0.4	
	建築計画	2~8		4		0.4	
	建築法規	2~4		2		0.2	
	建築造形	2			2	0.2	
	マルチメディア利用	2			2	0.2	
商業	ビジネス基礎	2~4		2		0.2	
	総合実践	2~4			4	0.4	
	商業技術	2~4		2		0.2	
	マーケティング	2~4			2	0.2	
	経済活動と法	2~4			3	0.3	
	簿記	2~5		4		0.4	
	会計	2~4			4	0.4	
	原価計算	2~4			4	0.4	
	情報処理	2~5		4		0.4	
	ビジネス情報	2~5			4	0.4	
	文書デザイン	2~4			4	0.4	
	ワープロライティング	2~4	▲2			0.2	
家庭	発達と保育	2~6			2	0.2	
	児童文化	2~4			2	0.2	
	家庭看護・福祉	2~8		2	4	0.6	
	リビングデザイン	2~6			2	0.2	
	服飾文化	2~4			2	0.2	
	被服製作	2~16		4	4	0.4.8	3年次のみは不可
	ファッションデザイン	2~14		2		0.2	
	服飾手芸	2~6		2	2	0.2.4	
	フードデザイン	2~10		4		0.4	
	食文化	1~2		2		0.2	
	調理	2~14			4	0.4	
	栄養	2~4			2	0.2	
	生活デザイン	2	▲2			0.2	
生活調理	2			2	0.2		
体 育	スポーツⅡ	2~18			2	0.2	
外国語	中国語	2			2	0.2	
専門教科計		2~0		26~2	24~0	52~2	
産 業	産業社会と人間	2~4	2			2	原則履修科目
特 活	ホームルーム活動		1	1	1	3	
総合的な学習の時間		3~6		2	2	4	
合計			31	32	31	94	

▲は1年次の選択科目

●は芸術より1科目選択

○は理科総合ABのいずれか選択

資料2 科目案内 《選択条件をつけた科目の例》

教科	工業	科目名	電子情報技術	単位数	2	必選 の別	選 択
授業 形態	講義・実習 (パソコン室)			履修 年次	2年次	選 択 条 件	2年次の電気基礎 1、電子実習1を履 修する者
科目の 概要	電子技術の応用技術としてのコンピュータのハード、ソフト、 ネットワークの基礎的な知識と技術を総合的に習得する。						
	学 習 項 目			評価の方法		教材他	実況出版 「電子情報技術」
学 習 計 画	前 期	1. コンピュータの電子回路 2進数と10進数 2. コンピュータの構成と機能論理回路、 記憶装置		定期考査70% 授業態度20% 提出物 10%		費 用	
	後 期	3. 制御プログラミング アセンブラとC言語 コンピュータの利用とネットワーク システム、LAN、マルチメディア		定期考査70% 授業態度20% 提出物 10%		備 考	エレクトロニクス 系列を選択するも のは、情報技術基礎 だけでなくこの科 目を履修すること。

《選択条件をつけない科目の例》

教科	工業	科目名	建築計画	単位数	2	必選 の別	選 択
授業 形態	講義・演習			履修 年次	2年次	選 択 条 件	特になし
科目の 概要	日本と世界の建築の歴史を知り、さらに建築物を美的にか つ合理的に計画し、設計できる能力と態度を養う。						
	学 習 項 目			評価の方法		教材他	プリント
学 習 計 画	前 期	① 建築の移り変わり ② 建築物内外の環境 ③ 築計画の進め方と住宅設計の方法		定期考査7割 提出物・課題・ 出席・態度3割		費 用	なし
	後 期	④ 独立住宅の計画 ⑤ 集合住宅の計画 ⑥ 事務所建築の計画 ⑦ 都市と地域の計画 ⑧ 建築設備の計画		同上		備 考	将来建築士の資格取得 を目指す人は必須科 目。建築関係の就職進 学を目指す人に勧め る。

## 資料3 教務規程（一部抜粋）

第18条 （履修の認定）科目の履修は、当該科目の2／3以上の出席がある場合に認定する。

第19条 （単位修得の認定）次の条件を満たす者について単位の修得を認定する。

- (1) 出席時数とその科目の授業時数の3分の2以上であること。
- (2) 学年成績の評価が5段階評定で「2」以上であること。

第20条 単位修得の認定は、原則として年度末とする。但し、学期完結教科・科目および4年次以降の生徒について、分割認定を校長が認めた教科・科目については、各学期ごとに認定することができる。

第24条 （卒業の認定）卒業の認定は、次の条件を満たした場合とする。

- (1) 16条による、必修科目・原則履修科目および特別活動をすべて履修していること。
- (2) 80単位以上の単位を修得していること。

## 注

- 1 中央教育審議会（第14期）答申  
「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」平成3年（1991年）4月  
（総合学科関係資料集：文部省初等中等教育局職業教育課 平成12年3月）
- 2 熊本県教育委員会ホームページ<http://www.pref.kumamoto.jp/gyousei/edu/> 県立高等学校再編整備等基本計画  
素案と地域説明会について 平成18年（2006年）7月19日
- 3 時事通信社：内外教育：平成11年（1999年）7月2日 p10 「専門学科高校、総合学科卒業生の進学後状況  
調査」
- 4 文部省初等中等教育局職業教育課：総合学科関係資料（平成12年3月）
- 5 熊本日日新聞：平成6年（1994年）3月23日「大津産業に総合学科」
- 6 大津産業高等学校：文部省指定平成6・7年度高等学校教育改革推進協力校「研究成果報告書」平成8年（1996  
年）3月
- 7 翔陽高等学校：学校経営案 平成9年（1997年）度版
- 8 大津産業高等学校：学校経営案 平成6年（1994年）度版、翔陽高等学校：学校経営案 平成10年（1998年）  
度版
- 9 翔陽高等学校：新入生のしおり 平成14年（2002年）度版
- 10 高等学校学習指導要領：第1章7款の2
- 11 大津産業高等学校：文部省指定平成6・7年度高等学校教育改革推進協力校「研究成果報告書」平成8年（1996  
年）3月
- 12 高等学校教育の改革の推進に関する会議第4次報告：平成5年（1993年）2月
- 13 高等学校学習指導要領解説 総則編： p95
- 14 翔陽高等学校：インターンシップ報告書 平成16年（2004年）度版
- 15 「紀要V I S I O」33号：p48 「3. インターンシップの実施」
- 16 高等学校学習指導要領 第1章4款の6



## 参考文献

- 大津産業高等学校：文部省指定平成6・7年度高等学校教育改革推進協力校「研究成果報告書」平成8年（1996年）3月
- 文部省初等中等教育局職業教育課：総合学科関係資料 平成12年（2000年）3月
- 文部省編集：文部時報No.1422 平成7年（1995年）6月
- 文部科学省：高等学校学習指導要領解説（総則編）平成17年（2005年）8月
- 翔陽高等学校：学校の概要 平成16年（2004年）
- 同：産業社会と人間「資料集」平成15年（2003年）
- 同：平成18年度「科目案内」平成18年（2006年）
- 同：「学校経営案」平成6年度、10年度、18年度版
- 同：平成16年度「インターンシップ報告書」平成16年（2004年）
- 文部科学省ホームページ：<http://www.mext.go.jp/> 総合学科の今後のあり方について
- 文部科学省ホームページ：<http://www.mext.go.jp/> 総合学科について